

共想法による話し言葉・書き言葉における修辞機能の特徴 —テーマとの関係に着目して—

田中 弥生¹ 小磯 花絵¹ 大武 美保子²

¹ 国立国語研究所 ² 理化学研究所

{yayoi,koiso}@ninja1.ac.jp mihoko.otake@riken.jp

概要

高齢者の認知的健康につながる会話支援手法である「共想法」による談話を対象とした分析から、談話のテーマによって用いられやすい修辞機能の種類に差が見られたことを受け、本研究では、同テーマの小作文においても同種の偏りが見られるかを検討した。分析の結果、テーマに深く関わる修辞機能については談話と小作文に共通した偏りが見られたのに対し、語る／書く状況の違いに起因すると見られる修辞機能の使用の違いも観察された。このことは結果として共想法にもとづく言語使用により多様な修辞機能の使用につながる可能性を示唆する。

1 はじめに

本発表は、「共想法」における話し言葉と書き言葉での修辞機能の使用の様相をテーマごとに確認し、これまで話し言葉を対象として行ってきた検討を書き言葉にも広げて異同を確認するものである。共想法は、高齢者の認知的健康につながる会話を確実に発生させることができるよう工夫を加えた会話支援手法 [1],[2] で、1対1や少人数のグループで行う。設定されたテーマに沿って、準備した写真などを持ち寄り、参加者全員のもち時間を均等に決めて、話題提供する時間(独話)(以下「話題提供」と)、質疑応答する時間(会話)(以下「質疑応答」)に分けるという2つのルールに沿って行われる。このように「話す」だけでなく「聞く」「質問する」「答える」をバランスよく行うという環境において、言語機能を多角的に活用する効果があると考えられている。また、複数のテーマで共想法を重ねる中で、特定の修辞機能に偏らないバランスのとれた発話がなされることも重要であると考えられる。

修辞機能の確認には、修辞機能分析の分類法 [3] を用いる。修辞という語は技巧的な意味合いで用い

られるが、本研究では修辞機能を「話し手書き手が発信する際に、言及する対象である事態や事物、人物等を捉え表現する様態を分類し概念化したもの」と定義する。修辞機能分析では、修辞機能とともに、脱文脈度が特定される。文脈や脱文脈という用語は研究分野によって使われる意味が異なるが、本研究では脱文脈度を、「発話がコミュニケーションの場「いま・ここ・わたし」にどの程度依存しているか」の程度を表す概念とする。

これまで、共想法の中核ともいえる「話題提供」と「質疑応答」の談話を修辞機能と脱文脈化の観点から分析してきた [4][5][6]。このうち田中ほか [6] では、「話題提供」と「質疑応答」の分析から、テーマによって修辞機能の使用に特徴があり、設定するテーマを調整することで特定の修辞機能に偏らず多様な修辞機能の使用につながる可能性のあることが分かった。しかし共想法では、帰宅後にそのテーマについて200字程度の要旨(以下「小作文」)にまとめるという課題を実施する場合がある。

そこで本発表では、同じテーマの書き言葉である「小作文」でも話し言葉と同様の修辞機能が用いられるか否かを確認する。共想法は、単なる雑談とは異なる点で認知的健康につながる活動とされている。多様な修辞機能の使用が認知的健康によりつながるとすれば、グループで実施する「話題提供」等の談話後に書く「小作文」の修辞機能の使用が「話題提供」などと同じか否かを確認することは、共想法における小作文活動の役割を確認するとともに、テーマ設定の検討への知見となると考えられる。

2 分析対象と分析方法

2.1 分析対象

本発表では、共想法の1グループ4名のメンバーによる「好きなもの」「近所の名所」「新しく始める

こと」の3テーマについての「小作文」と独話の「話題提供」を分析の対象とする。

2.2 分析方法

修辞機能分析の分類法によって、1. 分析単位となるメッセージ(概ね節)に分割してその種類から分析対象を特定し、2. 発話機能、時間要素、空間要素を認定し、その組み合わせから、3. 修辞機能の特定と脱文脈度の確認を行う。

2.3 分析対象の特定

分析単位の「メッセージ」は、概ね節に相当し、「主節」(単文と主節)、「並列」(主節以外で節の順番を変更することが可能な並列節、従属度の低い従属節)、「従属」(従属度の高い従属節)、「定型句類」(相槌や定型句、述部がなく復元ができないものや挨拶など)に分類する。基本的に「主節」と「並列」をこの後の分類対象とする。

2.4 発話機能・時間要素・空間要素の認定

「主節」及び「並列」と認定されたメッセージについて、発話機能(提言・命題)・時間要素(述部の時制: 現在・過去・未来意志的・未来非意志的・仮定・習慣恒久)・空間要素(述部に対する主体や主題: 参加・状況内・状況外・定義)を認定する。表1に示したように、これらの組み合わせから、修辞機能と脱文脈化指数が特定される。時間要素は「いま」からの時間的距離を、空間要素は「ここ・わたし」からの空間的距離を示す。いまここわたしに近い修辞機能【行動】の脱文脈化指数が【01】で最も低く、空間的にも時間的にも遠い【一般化】[14]が最も高い。

表1 発話機能・時間要素・空間要素からの修辞機能と脱文脈化指数の特定

定義	高空間的距離のレベル↑						一般化 14
状況外	報告 09		状況外回想 10	予測 11		推量 12	説明 13
状況内	実況 02		状況内回想 03	状況内予想 05		状況内推測 06	観測 08
参加	行動 01			計画 04			自己記述 07
空間要素	← 低 ← 時間的距離のレベル → 高 →						
時間要素	現在		過去	未来意志的	未来非意志的	仮定	習慣・恒久
発話機能	提言		命題				

2名の作業者によってアノテーションを行い、判

断が分かれたものは筆者の1人が決定した。

2.5 予想される特徴

「話題提供」は話し言葉で「小作文」は書き言葉であるが、聞き手、読み手を想定したものである点は共通しており、基本的にはテーマに特徴的な修辞機能が共通して用いられることが予想される。その一方で、話し言葉と書き言葉というモードの違いにより、「話題提供」と「小作文」とでは異なる修辞機能の使用が見られる可能性も考えられる。

3 分析結果

表2に、「話題提供」と「小作文」のテーマごとの修辞機能の出現頻度を示す。

表2 各テーマの修辞機能と脱文脈化指数の出現頻度

	話題提供			小作文		
	好きなもの	近所の名所	新しく始めること	好きなもの	近所の名所	新しく始めること
一般化 14	2	0	0	1	0	0
説明 13	25	38	23	21	54	26
推量 12	1	0	0	0	0	0
予測 11	0	3	4	0	0	1
状況外回想 10	1	21	2	11	23	11
報告 09	0	1	0	1	0	0
観測 08	31	15	18	4	1	5
自己記述 07	40	7	24	27	6	7
状況内推測 06	0	0	1	0	0	0
状況内予想 05	0	0	0	0	0	0
計画 04	5	2	17	5	1	17
状況内回想 03	10	21	25	29	19	3
実況 02	4	1	2	2	0	0
行動 01	0	0	0	0	0	0

テーマと修辞機能との関係を調べるために、対応分析を行った¹⁾。分析にはRのcorresp関数を用いた。「話題提供」の結果を図1に、「小作文」の結果を図2に示す。

図1から「話題提供」の特徴として以下のことがわかる。

- 3つのテーマの間に【説明】[13]が位置しており、いずれのテーマも共起している。
- テーマ「好きなもの」では【自己記述】[07]および【観測】[08]と共起している。
- テーマ「近所の名所」では【状況外回想】[10]と共起している。
- テーマ「新しく始めること」では【状況内回想】[03]と【計画】[04]と共起している。

図2から「小作文」の特徴として以下のことがわ

1) 出現頻度がほとんど出現しない修辞機能は除外した(「話題提供」では10以下、「小作文」では5以下)。

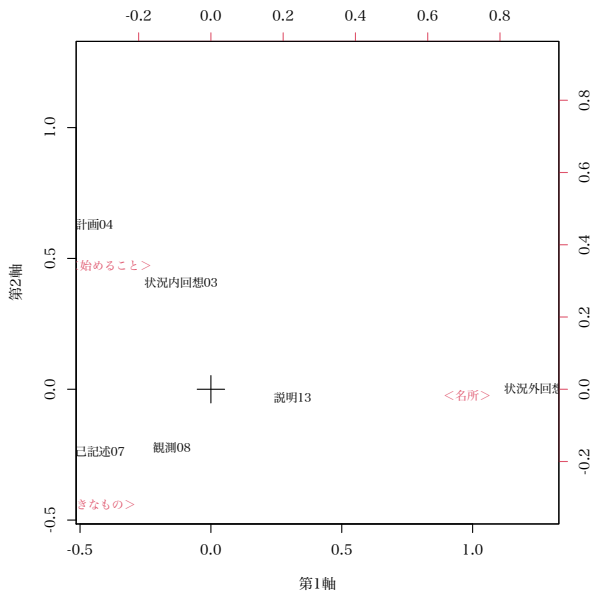


図1 「話題提供」の修辞機能の対応分析結果
(図ではテーマを略して<名所>のように表示)

かる。

- テーマ「好きなもの」では【状況内回想】[03]と【自己記述】[07]と共起している。
- テーマ「近所の名所」では【説明】[13]と【状況外回想】[10]が共起している。
- テーマ「新しく始めること」では【観測】[08]と共起し、【計画】[04]とも関わりが見られる。

4 考察

本節では、テーマによる修辞機能の使用の特徴と、話し言葉書き言葉というモードによる違いの有無を検討する。3節でわかった各テーマの話し言葉・書き言葉に特徴的な修辞機能を表3にまとめた。

表3 各テーマの話し言葉・書き言葉に特徴的な修辞機能

	好きなもの	近所の名所	新しく始めること
「話題提供」に特徴的	観測 08 説明 13		状況内回想 03 説明 13
両者に共通	自己記述 07	状況外回想 10 説明 13	計画 04
「小作文」に特徴的	状況内回想 03		観測 08

表3から、どのテーマにおいても、話し言葉である「話題提供」と書き言葉である「小作文」に共通する修辞機能が見られることが分かる。このことは、テーマに特徴的な修辞機能がモードによらず見られることを意味している。その一方で、話し言葉のみ、あるいは書き言葉のみに見られる機能も存在していることが分かる。このことは、共想法の中核

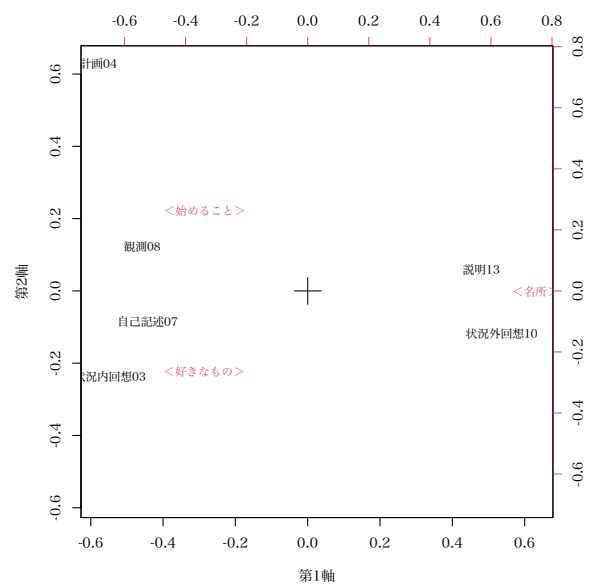


図2 「小作文」の修辞機能の対応分析結果
(図ではテーマを略して<名所>のように表示)

ともいえる「話題提供」等の話し言葉とは異なる修辞機能が「小作文」で用いられ、結果として多様な修辞機能の使用につながる可能性を示唆する。

以下では、「話題提供」と「小作文」における修辞機能使用の異同について見ていく。

4.1 モード共通の修辞機能

いずれのテーマでも、モードに関わらず共通してみられた修辞機能は、そのテーマとの親和性の高いものであった。例えばテーマ「好きなもの」では、自分の好きなものを伝えるために自然に使われるであろう【自己記述】[07]がモードに共通してみられた。

- 1) (話題提供) あの、常に持ち歩いている感じですね。

〔発話機能：命題&時間要素：習慣恒久(常に持ち歩いている感じですね)&空間要素：参加(φ=私は)〕
→【自己記述】[07]

- 2) (小作文) どこに行くにも自家用車を利用している。

〔発話機能：命題&時間要素：習慣恒久(利用している)&空間要素：参加(φ=私は)〕
→【自己記述】[07]

「近所の名所」では、【状況外回想】[10]と【説明】[13]が共通してみられた。名所という個人的ではないものを表現し、説明する修辞機能である。

- 3) (話題提供) 近所の方が皆さん、清正公さんっ

ていってまして、

〔発話機能：命題&時間要素：習慣恒久(いってまして)&空間要素：状況外(近所の方が)〕→【説明】[13]

- 4) (小作文) 文京区役所のそばに小石川源覚寺と言うお寺があります。

〔発話機能：命題&時間要素：習慣恒久(あります)&空間要素：状況外(お寺が)〕→【説明】[13]

- 5) (話題提供) お化け屋敷みたいのがありましたけど、

〔発話機能：命題&時間要素：過去(ありました)&空間要素：状況外(お化け屋敷みたいのが)〕→【状況外回想】[10]

- 6) (小作文) 3歳ごろまで水戸藩邸で暮らしていた

〔発話機能：命題&時間要素：過去(暮らしていた)&空間要素：状況外(φ=徳川慶善公は)〕→

【状況外回想】[10]

「新しく始めること」では、決意や予定を表現する修辞機能として【計画】[04]がモードに関わらず共通してみられた。

- 7) (話題提供) 行けるとこは行ってみたいなと思って、思っています。

〔発話機能：命題&時間要素：未来意志的(行ってみたいな)&空間要素：参加(φ=私は)〕→【計画】[04]

- 8) (小作文) 最近始めたボーリングを体力の続く限り続けようと思いました。

〔発話機能：命題&時間要素：未来意志的(続けよう)&空間要素：参加(φ=私は)〕→【計画】[04]

このように、モードに関わらずテーマによって使用される修辞機能に偏りがあることがわかった。共想法によりできるだけ多様な修辞機能の使用を促すためには、修辞機能との親和性を想定してテーマを選ぶことも重要であろう。

4.2 「小作文」に特徴的な修辞機能

「小作文」に特徴的であったのは、テーマ「好きなもの」における【状況内回想】[03]と「新しく始めること」における【観測】[08]である。「新しく始めること」の【観測】[08]は出現頻度は高くないため、「好きなもの」の【状況内回想】[03]について確認していく。以下がその例である。

- 9) (小作文) 同級生の従兄弟と一緒に作ったのがオーディオの始まりだった。

〔発話機能：命題&時間要素：過去(始まりだった)&空間要素：状況内(作ったのが)〕→【状況内回想】[03]

- 10) (小作文) 父親の形見として約20年間金時計を使っていたが、

〔発話機能：命題&時間要素：過去(使っていました)&空間要素：参加(φ=私は)〕→【状況内回想】[03]

自分の好きなものについて述べる際に、そのものとの出会いや、過去の思い出などを語るようである。ここで例にあげた「小作文」の筆者の「話題提供」での修辞機能を確認すると、次のように【観測】[08]を使用していることが分かる。

- 11) (話題提供) この写真はですね、今、毎日使ってる、えー、ラジオなんですけども、

〔発話機能：命題&時間要素：習慣恒久(ラジオなんですけども)&空間要素：状況内(この写真は)〕→【観測】[08]

- 12) (話題提供) まずこちらが腕、腕時計なんですけど、

〔発話機能：命題&時間要素：習慣恒久(腕時計なんです)&空間要素：状況内(こちらが)〕→【観測】[08]

この事例から、「好きなもの」というテーマにおいては、「話題提供」では目の前で示している写真にうつっているものについて語ることが特徴的で、「小作文」はその目の前の写真という文脈から離れた時空を語ることが特徴的であると言えるだろう。このことは、「話題提供」が話し言葉で、「小作文」が書き言葉であるというモードの違いに関わることではあるが、グループで写真を見ながら行われる「話題提供」という場の性質と、活動後に帰宅して一人で書くという場の性質によるものとも考えられる。

5 おわりに

共想法における「話題提供」と「小作文」では、モードによらずテーマに共通して使用される修辞機能がある一方、異なるものもあることがわかった。このことは、共想法において話し言葉のみならず書き言葉の活動も行う事によって多様な修辞機能の使用につながる可能性を示唆している。本発表では1グループ4名の3テーマによる分析であった。今後他のグループや他のテーマでの分析を行い、修辞機能の観点からの検討を加えていく予定である。

謝辞

本研究は JSPS 科研費 JP19K00588, JP18KT0035, JP20H05022, JP20H05574, JP22H00544, JP22H04872 JST 研究費 JPMJCR20G1, JPMJPF2101, JPMJMS2237 の助成を受けたものです。共想法に参加頂いた方に感謝申し上げます。また、国立国語研究所のプロジェクト「多世代会話コーパスに基づく話し言葉の総合的研究」によるものです。

参考文献

- [1] M. Otake-Matsuura, S. Tokunaga, K. Watanabe, M. S. Abe, T. Sekiguchi, H Sugimoto, T Kishimoto, and T Kudo. Cognitive Intervention Through Photo-Integrated Conversation Moderated by Robots (PICMOR) Program: A Randomized Controlled Trial. **Frontiers in Robotics and AI**, Vol. 8, , 2021. Publisher: Frontiers.
- [2] 大武美保子. 介護に役立つ共想法: 認知症の予防と回復のための新しいコミュニケーション. 中央法規出版, 2012.
- [3] 田中弥生. 修辞機能と脱文脈化の観点からの日本語談話分析. 博士論文, 東京大学大学院総合文化研究科, 2022.
- [4] 田中弥生・小磯花絵・大武美保子. 共想法談話の脱文脈化観点からの検討. 言語処理学会第 27 回年次大会発表論文集, pp. 569–573, 2021.
- [5] 田中弥生・小磯花絵・大武美保子. 脱文脈化の観点から見た共想法に基づく高齢者談話の分析. 国立国語研究所論集, Vol. 22, pp. 137–155, 2022.
- [6] 田中弥生・小磯花絵・大武美保子. 共想法談話のテーマと修辞機能の関連についての分析. 言語処理学会第 28 回年次大会発表論文集, pp. 1439–1443, 2022.